

MTT035-08

会場:203

時間:5月24日 10:15-10:30

## 環境問題研究におけるフィールドワークの役割 How fieldworks can contribute to environmental problems

大西 健夫<sup>1\*</sup>

Takeo Onishi<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 岐阜大学流域圏科学研究センター

<sup>1</sup> RBRC, Gifu University

地球科学ほど異分野融合が求められる分野はない。異分野融合のためには、「テーマ」、「概念」、「場」などの共有が重要となる。最も基本的な「場」とは、データ収集を行うフィールドにほかならない。しかし、フィールドの共有だけでは異分野融合は進まない。フィールドワークのあり方に関する相互理解が必要となる。本セッションでは、多分野のフィールドワーク経験の共有を通して、フィールドワークのあり方を議論する。本発表では、議論を進めるにあたりフィールドを起点として異分野融合的研究を進めるにあたり、どのような視点が重要となりうるかを、環境問題研究の視点から論ずる。本報告では、環境問題研究という視点からは異分野融合の必要性は必然的である、との立場にたち、以下の5つのポイントから、環境問題研究におけるフィールドワークの役割と、環境問題研究におけるフィールドワークのあり方を論じる。

最初に、フィールドワークを行うフィールドに限定せず、広く「場」という概念がどのような文脈で用いられているのかを概観する。その上で、フィールドの共有のために必要となる Boundary object の重要性を確認する。Boundary object とは異分野の境界に存在し、互いに共有されている何かである。同時に Boundary object には多義性も許容されることを確認する。その上で、環境問題においては、これから将来にわたって「場」の境界設定が重要な論点となるであろうことを、いくつかの事例をとりあげながら議論することを試みる。また、実験科学とフィールド科学の対比から、固有性と普遍性の問題を論じ、1回しか起こらない(繰り返しがきかない)フィールドの研究を通していかに普遍的な知見を導きうるのか、という視点からの異分野融合の可能性を議論する。さらに、今現在うごきつつあるシステムを止めることなく(要素還元的に分解することなく)システムのあり方を改良していくときの方法論の模索が急務であるとの認識から、フィールドを介した異分野融合研究の可能性を論じる。

キーワード: 分野融合, 環境問題, 境界

Keywords: trans disciplinary, environemntal problems, boundary